

令和7年12月9日

厚沢部町議会議長 鈴木祥司様

総務文教常任委員長 浜塚久好

令和7年度 総務文教常任委員会第1回所管事務調査報告

当委員会が行った令和7年度所管事務調査事項について、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 調査年月日 令和7年7月23日（1日間）

- 2 調査項目 ①生成AIを活用した業務について
②義務教育学校今後の進め方について
③町有林の維持管理について
④国保病院の運営状況について

※ ③及び④については、産業厚生常任委員会と合同調査

両常任委員会の協議に基づき③は「総務文教常任委員会」、
④は「産業厚生常任委員会」が代表して報告するものとする。

3 調査委員 委員長 浜塚久好
副委員長 香川直樹
委員 佐々木宏
委員 小野寺孔

4 調査結果

①生成AIを活用した業務について

生成AIが現代社会において幅広く利活用されてきている現状の資料説明を受けた。

生産年齢人口の減少による労働力不足、行政課題の多様化や専門化する中、住民が健康で文化的な生活を送るために自治体には安定して持続可能な形で住民サービスを提供することが求められています。そのためには、生成AIを利用した業務の効率化や職員のルーティン作業の軽減等により本来業務に集中できる環境を整えることが必要です。

本町は、令和7年度より業務に生成AIを導入しており、その利活用が期待されるところです。教育現場では、既に幅広く利活用されており、児童生徒の学習サポート、教員の働き方改革に繋がっている。

一方で、生成AIは、万能ではなくハルシネーションと呼ばれるもっともらしい嘘をつくという事象が生じることがあり、また、使用の仕方によつては、情報漏洩や著作権侵害などに留意する必要があります。

今後は、幅広い分野で生成AIの導入が不可欠であり、そのためには利用する職員のスキルアップ、環境の充実を期待する。

②義務教育学校今後の進め方について

本町の義務教育学校基本方針、新校舎の建設候補地について資料説明を受けた。

本町は、少子化と児童生徒の激減による教育環境再構築の必要性、また既存施設の老朽化により、義務教育学校への移行と施設の新築を計画しているところである。本町の義務教育学校基本方針、「学びの連続性と個別最適化を重視した9年間の一貫教育」、「地域資源を活かした特色ある教育と未来志向の融合」、「柔軟で創造的な学習空間の実現と地域拠点化」、これらを踏まえたうえでスムーズな義務教育学校への移行と新校舎の建設が喫緊の課題となっている。

現在、建設候補地として、「厚沢部小学校現敷地」、「厚沢部中学校現敷地」、「赤沼地区」の三か所が候補に上がって検討している。通学環境の適正化、建設・運営コスト、地域住民の意見、防災機能の確保、交通アクセスとインフラ、これらの主な選定基準を考慮した建設場所の選定が肝要となる。とりわけ建設・運営コストについては、近年の建築資材高騰が著しく、今後の児童生徒数の推移等を判断したうえ、町民説明会等で十分な理解を得て選定していただきたい。

③町有林の維持管理について

※上記については合同調査につき、両常任委員会の協議に基づき「総務文教常任委員会」が両委員会を代表して報告するものとする。

町有林の維持管理について資料説明を受け、管理状況について現地確認を行った。

人工造林の下刈り、間伐・枝打ち回数等、また、針葉樹、広葉樹の違いの説明を受けた。スギ、カラマツ（針葉樹）等は成長が早く材積も多いため標準的な伐期齢は40～50年程度、一方でブナ、ミズナ（広葉樹）等は成長が遅く、伐期齢は100～150年程度と時間が掛かるため経済林として需要が少ない。植林する樹種は、適地適木として選定が必要だが現在は、スギ、カラマツ、トドマツが大半を占めている。ヒバは苗木単価、将来の売価予測を考えると建築資材が高騰している近年は、需要は少なく、経済木として下火傾向にある。

昨年は、後志、今金町で野鼠が大発生した年でしたが、本町でも6月に実施した予察調査で大量発生が確認された。しかしながらアカネズミが大半を占めており、木の食害もたらすエゾヤチネズミは、ほとんど確認されなかつた。殺鼠剤散布については、国の基準に基づき、樹種に応じて計画的に散布している。

現地調査は、鶴地区の林齡21年生のブナ、1年生カラマツの生育状況を確認した。ブナについては、周りの同じ林齡の針葉樹と比べ明らかに成長が遅いのを確認した。

④国保病院の運営状況について

※「産業厚生常任委員会」から報告